

ご存じですか！文化財

61

「渡良瀬川重助裏護岸工之図」

市指定有形文化財 昭和56年3月9日指定



問合せ
生涯学習課
(0480)62・1223



所在地 栄2167

が描かれています。中段には河道を往来する蒸気船「通運丸」や高瀬舟、渡船が何艘か見えます。河川交通が物資輸送や人の往来の面でも欠かせない当時のにぎわいを伝える構図です。

さらに、上段に描かれた対岸の遠景は、小段を石で強化した堤防上に、通行人や人力車が描かれ、また、天端と同じ高さに農家とおぼしき家並みが続いています。

「渡良瀬川重助裏護岸工之図」は、明治中期の渡良瀬川の様子を伝える貴重な絵馬です。「重助裏」は、渡良瀬川をせき止めて作られた現在の旧川の「く」の字型に曲がった地点を指しています。地形からも明らかのように、河川交通の難所であると同時に、洪水の際の切所でした。

この絵の下段には、紅白の内務省旗の下で、2人の監督官と30人の作業員が、土俵・石その他の資材を積んだ船を動かし、護岸工事とともに水制工事を進めている様子

この大型(縦91・3cm、横136・5cm)の絵馬は、度重なる洪水被害からの復旧と防災工事の進ちよくを祈願して、明治18(1885)年に神前に奉げられたものです。



紹介者 山崎 繁雄さん(駒場)